Peppolが輝かせる「主役」たち ～日立社会情報サービス、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年７月15日、デジタル庁は、株式会社日立社会情報サービスの営業担当 日比野氏を筆頭とするメンバーとともに、政府調達システム（GEPS）に対するデジタルインボイスでの請求について「振り返り」を行いました。

株式会社日立社会情報サービスは、e-Govデータポータルサービスの運用・保守業務をサポートしており、その業務に係る請求について、GEPSに対するデジタルインボイスでの方法に切り替えを行いました。

「振り返り」では、日比野氏より「これまでの請求方法に課題があるわけではない。そのためデジタル庁からお話があったときには若干戸惑ったのも事実」といった率直な感想とともに、「同時に、デジタル庁側の請求処理の効率化に資するのではあれば、ぜひ協力したいという思いもあった」との話がありました。

そのうえで、日比野氏からは「今回は、デジタル庁のサポートを得て、『トライアル』として実施するもの。日立グループのITソリューションを担う企業として、自社のDX推進は重要な取組の一つ。B2G取引に限らず、デジタルインボイスの実装を検討していく良い機会にしたい」と今般のトライアルに対する評価がありました。

株式会社日立社会情報サービス 日比野氏（写真中央）とそのメンバー